

風見しんじゅん 命の貴さを訴え

倉敷・岡山短大で講演

交通事故で長女を亡くしたタレントの風見しんじゅん（四五）が五日、岡山短大（倉敷市有城）で講

演し、保育者を目指す学生、市民ら計約四百三十人が参加した。

昨年一月、長女〓当時

命を守る保育者を育てる同短大の「人命尊重マインド養成支援プログラム」の一環で、同短大と併設の岡山学院大の学

（〓）が登校中に事故に巻き込まれた風見さんは「事故は人も時間も場所も選ばず、日常生活の中で突然起こる」と強調。警察の捜査や裁判などで



事故の悲惨さや命の貴さを学生に訴える風見しんじゅん

事故を思い出させる日々が続く、家族や長女の同級生に苦しみ広がったことなどを声を詰まらせながら振り返り、「幼い子どもを亡くすつらさを、ほかの人に味わわせたくない」と語った。

命の大切さを伝える一言一言に学生らは真剣に聞き入り、目頭を押さえる姿もあった。四月から保育士として働く同短大幼児教育学科二年、瀧島和穂さん（〓）は「交通安全の大切さを子どもに教え、自分も車の運転などに注意したい」と話した。

（天津雄一郎）

